

円居
まどぬ

令和6年5月20日(月)
備前市立備前中学校
校長 藤森 卓麻
0869-64-3365

発展途中の備前中です

ルールについて考える

修学旅行に行っていました。様々な場面で生徒たちが頑張る姿が見られた一方で、「ルール」に関する事で失敗して教員に指導される場面もありました。交通ルールやスポーツのルールのように、そのルールを守らないとどうなるかイメージしやすいものもありますが、ルールを守らないことがどういふことに繋がるのかということ、少し別の視点から考えてみる必要があるのかなと思いました。例えば「時間」。これも二人以上の人が集まって生活する上で必要なきまりの一つです。集合時刻に三分遅れた人がいるとします。たかが三分くらい、かもしれないませんが、その三分間何もせずに待っている人が百人いれば、合計三百分(五時間)の時間を奪っていることになりません。しかもその時間は返すことができません。社会では、そのせいでいくらかのお金が損失、という話にもなります。そうなるのもう一つ、遅刻した人が失うものがあります。それは「信頼」です。次の集合に間に合えばこのときのミスは取り消されるかという、一度失った信頼を取り戻すには、失ったときの何倍もの労力や時間がかかります。社会に出ればなおさらです。

余計なお世話 ー携帯電話・スマートフォンについてー

備前中学校では、校則を無くしていつているわけではありません。時間に関するきまり、身につけるものや身なり、持ち物に関してのきまりもあります。「持ってきてはいけないもの」を列挙しているわけではありませんが、携帯電話・スマートフォンについては、校内への持ち込みをはっきり禁止しています。

「居場所確認・緊急連絡のための手段」といった、スマホを校内に持ち込むメリットは考えられます。しかし、使い方を誤ったときのリスクはとても大きなものです。「スマホ依存」「SNS上のトラブル(悪意のある人と繋がる、個人情報の流出、人間関係のこじれ・いじめ等多種にわたる)」といったことが実際に起こっています。

備前中で進めている校則の見直しは、校則を緩めたりなくしたりすることではなく、ルール・きまりを自分事としてその意味を考え、責任を持って正しい行動をしていこう、ということです。「責任」と言いましたが、社会的(世の中の法に触れるようなこと)には中学生はまだ自分では責任をとらせてもらえません。そういう場合責任をとるのは基本的に保護者の皆様です。スマホや携帯電話については、中学生のうちはまだ自分でコントロールができないと考えています。現在の備前中の(ルールを守りきれない危険な)状況から、その子自身もそうですし、周りの子にも危害が及ぶことを防ぐために、余計なお世話ですが、全面的にスマホの持ち込みを許可することはできません。ですから、そういった状況を把握すれば、本人に指導をし、保護者の方にもスマホを取りに来ていただく必要はありません。本来、放課後には、困っている子どもの相談に乗ったり、授業の準備をしたり、部活動の指導をしたり、といったことに時間を割きたいというのが私たちの本意ですが、スマホの指導に時間をとられることで結果的に子どもたちのために時間が使えていないという苦しい状況に陥っています。

〈お願い〉

■スマホに関するリスクについてなど、ご家庭でもお子様と話をしてください。

■学校に持ち込まないような工夫(スマホを預かる等)をしてください。

近い未来に、校内で素晴らしいアイテムとしてスマホを使いこなせる日が来るように、そして我々教職員がお子様のために本来やるべきことに時間を費やせるように、ご協力をぜひお願いいたします。

ただし、通学事情を踏まえて、緊急連絡等の手段として一部持ち込みを許可しています。

(※申請書の提出、在校時は学校に預ける等の条件があります。)

自立ということは、自分の依存先を増やすということ、という話を先日のPTA総会でさせて頂きました。この先子どもたちは多くの周りに頼り、頼られながら生きていきます。そんな中できまりを守るという意味をあらためて考えてみると、ルールとは、「みんなが安心して気持ちよく生活できるためのもの」。ルールを守ることは、

「人との信頼関係を築くこと」に繋がります。(※自立の観点から言うと、ルールを守ることは、大人になるということかもしれません。)逆に、ルールを違反することは、見つからなかつたらいいこと、しかられなかつたらいいこと、ではありません。失うものは大きいです。それを教えるのが我々大人の責任であると考えます。



北九州で繋げ輝け!

修学旅行では、学年の生徒と繋がり、教職員と繋がり、知識として身につけてきたものが、現地で体験することで学びへと繋がったと思います。見るもの

聞くもの食べるもの、同じものでも誰と一緒に味わうかで感じ方も変わるものです。子どもたちは何を感ず、何を語り合ひ、どう考えたのでしょうか。今、この環境だからこそ出てくる言葉もあるはず。子どもたちに再現してもらいながらご家庭でも味わっていただけでしょうか。先に触れたような失敗もありましたが、素直に間違いを直し、やり直すことができるのが、備前中の子どもたちのいいところです。これからも期待しています。

